

薬剤整理プログラム

1 入所前の薬剤情報伝達



相談員より入所前の薬剤情報の伝達を受けます。

2 利用者さんへ服用状況の確認



入所後、利用者さんやご家族にお薬の服用状況を確認します。

連携薬剤調整並びに同意に関する連絡票/在宅医に薬剤調整の意見を伺います。

3 カンファレンスで状態を確認



定期的なカンファレンスや現場のスタッフから日々の状態を確認します。

4 情報共有



処方を行う医師や利用者さんと接する機会の多い看護師・介護職・管理栄養士と薬の専門家の薬剤師が情報を共有します。

5 医師との相談、薬剤調整



利用者さんの病態・生活・環境などの背景を考慮し、適正処方か判断し、医師と薬剤を調整します。

6 退所時の情報共有



退所時に在宅サービス担当者や在宅医に情報を提供します。

空床状況・入所のお問合せなどお気軽にご相談ください。

草津ケアセンターでは、利用者さんがより快適に過ごしていただけるよう多職種が協働し支えていきます。

今後、5つのプログラムをシリーズにてお届けします

社会医療法人 誠光会 介護老人保健施設
草津ケアセンター 相談課
〒525-0027 滋賀県草津市野村2丁目13-13
TEL.077-567-1122 FAX.077-567-2085



教えてくれるのは…

草津ケアセンター 薬剤師 岩崎 秀子



複数の意味する「ポリ」、調剤を意味する「ファーマシー」を合わせた言葉で、多剤服用の中でも害をなすものを特に「ポリファーマシー」と呼びます。
単に服用する薬剤数が多いことではなく、多くの薬剤を服用することにより副作用や薬物有害事象につながる状態、飲み間違い、残薬の発生などの問題につながる状態です。
特に高齢の方になると、医療サービスを受ける機会が増え、多くの薬剤を併用するケースが増えるため、ポリファーマシーが起こりやすいと言われています。

ポリファーマシーとは？

ポリファーマシーを回避し、有害事象を未然に防ぐためには、まず薬を処方する医師をはじめとする医療者が十分に情報共有をし、必要な処方がないかを確認するなどの対策が必要です。
草津ケアセンターでは主治医がかかりつけ医と連携して、利用者さんの服用する薬剤を把握し、整理しています。
入所時に、利用者さんやご家族にお薬の服用状況を確認しています。入所されてからの状態を多職種で観察し、薬剤師がお薬の調整を提案しています。
(左ページ①～⑥)

ポリファーマシー解決に向けた対策

介護の専門家によるお役立ち情報

いきいき介護

vol.8

今回のテーマ

「ポリファーマシーに対する薬剤整理プログラム」

草津ケアセンターでは、在宅生活で必要となる動作を想定した個別リハビリや生活リハビリを行っています。身体機能・生活機能の維持や向上を目指し、利用者さんの生活をさまざまな専門職が支えています。

草津ケアセンターで取り組んでいる5つのプログラム

今回は③を紹介いたします。

- 1 栄養+リハビリプログラム
- 2 装具製作・修理プログラム
- 3 ポリファーマシーに対する薬剤整理プログラム
- 4 血圧・血糖・飲薬プログラム
- 5 インターバルケアプログラム

減薬をおねがいでよかったです/90代女性

入所後、今まで通りの薬を飲んでいましたが、食事療法・毎日の体操をしていくうちに、血圧や血糖値が低くなりすぎてしまいました。血圧を下げる薬2種、血糖を下げる薬3種をそれぞれ1種類に減らすことで安定した値になりました。薬を飲む量も少なくなり、飲みやすくなりました。今では元気に楽しく過ごしています。

